経営情報学部　総合経営学科

履修の手引と手続き

＜小　目＞

Ⅰ　ディプロマ・ポリシー…… 106
Ⅱ　カリキュラム・ポリシー…… 106
Ⅲ　授業科目について…… 107
Ⅳ　授業科目の単位と認定…… 107
Ⅴ　卒業に必要な単位について…… 108
Ⅵ　進級条件及び各学年における標準的な修得単位…… 108
Ⅶ　授業科目の学年配当と履修すべき単位数…… 110
　1．学科共通科目群…… 110
　2．キャリア形成科目群…… 115
　3．専門基礎科目群…… 115
　4．専門科目群…… 119
Ⅷ　履修申請について…… 124
Ⅸ　正規の履修からはずれる場合…… 124
Ⅹ　試験について…… 125
Ⅺ　授業科目の単位認定と進級及び留年…… 127
Ⅻ　成　績　発　表…… 127

履修の手引と手続き

Ⅰ　ディプロマ・ポリシー

経営情報学部は，以下に掲げる能力を有し，かつ所定の単位を修得した学生に，「学士（経営情報）」の学位を授与する。

1．経営全般に関する幅広い知識と，一人ひとりの進路を踏まえた特定の専門分野についての深い知識・技能を身につけている。
2．情報通信技術（ICT）の活用を通じて「経営」領域で分析ができ，経営活動に資する能力を身につけている。
3．企業，行政，教育現場等の諸課題に対して，経営資源である「ヒト・モノ・カネ・情報」を活用し，協働で改善策を提案することができる。
4．「国際人」として求められる教養を培い，英語あるいはその他の外国語を学ぶことを通じて，価値観の異なる異文化の人々と意思疎通や相互理解に努めることができる。
5．常に向上心と高い倫理観を以って社会の変化に適応でき，持続可能な社会に積極的に関与できるチャレンジ精神やリーダーシップを身につけている。

Ⅱ　カリキュラム・ポリシー

経営情報学部では，教育研究上の目的，及び学位授与方針に基づき，国際的に有為なマネジメント力のある人材を育成するため，以下に掲げる方針に則って，カリキュラム（教育課程）を編成する。

1．学科共通科目群では，経済社会のグローバル化と情報化の発展に即応できる能力，及び多様な価値観を互いに認め合う等の人間形成の基盤となる能力を身につけるため，英語を中核とする語学系科目，情報リテラシー科目，及び一般教養科目を配置する。
2．キャリア形成科目群では，大学での学修に必要な能動的な学び，社会で求められる倫理観，社会人基礎力，及びキャリア形成に資する能力を身につけるため，ビジネスキャリア関連科目やインターンシップに関する科目を配置する。
3．専門基礎科目群では，経営学関連科目を中核とする専門分野の基礎知識を身につけるため，マーケティング，経済学，会計学，情報科学，及び環境関連分野等に関わる総論的または基礎的な科目を配置する。
4．専門科目群Ⅰでは，一人ひとりの学修目標や進路に関わる知識・技能を深めるため，専門性の高い経営学，マーケティング，経済学，会計学，情報科学，法律学，スポーツマネジメント学，スポーツ・健康科学，環境関連科目等，幅広い分野の専門科目を配置する。

5．専門科目Ⅱでは，獲得した知識・技能・態度を統合し，主体的・協働的に諸課題に取り組む能力を高めるため，ゼミナールやプロジェクト研究等を配置する。
6．専門科目群Ⅲでは，マネジメント力と専門知識・技能を併せ持つ教員（保健体育科，社会科，公民科）を育成するため，教職に関する科目を配置する。

学位授与方針，及び学生一人ひとりの進路に，より対応するため，２年次より以下の６コースを設置する。

1．グローバルビジネス・マーケティングコース（東金キャンパスおよび紀尾井町キャンパス）
2．会計ファイナンスコース（紀尾井町キャンパス）
3．公共マネジメントコース（東金キャンパス）
4．スポーツマネジメントコース（東金キャンパス）
5．情報マネジメントコース（東金キャンパス）
6．情報・メディアマネジメントコース（紀尾井町キャンパス）

Ⅲ　授業科目について

経営情報学部総合経営学科における授業科目は学科共通科目群，キャリア形成科目群，専門基礎科目群，専門科目群から構成されている。

また東金キャンパス，東京紀尾井町キャンパスで開講される科目ならびに履修方法については，オリエンテーション等を通じて指示する。原則として，年度の途中にキャンパスの変更はできないので十分に注意すること。

Ⅳ　授業科目の単位と認定

本学部では単位制を採用している。単位制とは，ひとつひとつの授業科目に一定の基準により定められた単位があり，履修した授業科目に対して，試験もしくはその他の方法により学習評価をしたうえで，その単位を認定する制度である。

単位の認定は，Ｓ・Ａ・Ｂ・Ｃの４段階評価により行い，Ｄ・Ｅ・Ｆ・Ｔ・Ｚの評価は単位を認定しないものとする。成績の評価については，「Ｘ　成績発表」の項を参照すること。

Ⅴ　卒業に必要な単位について

卒業に必要な単位は，次の表に示すとおりである。

学部・学科 系　　列	経営情報学部　総合経営学科 単　　位　　数
学科共通科目群Ⅰ（語学）	8
学科共通科目群Ⅱ（情報）	6
学科共通科目群Ⅳ（教養）	10
キャリア形成科目群	10 （外国人留学生・帰国生は８）
専門基礎科目群	16
専門科目群Ⅰ	24
専門科目群Ⅱ（ゼミ研究・実践）	8
経営情報学部のすべての科目群より修得した科目以外に選択必修。30単位までを上限に他学部の科目を卒業単位に含めことができる。	42 （外国人留学生・帰国生は44）
合計	124

＊なお，専門科目群Ⅲ（教職関連）は，社会科教育法Ⅰ～Ⅳ・公民科教育法Ⅰ～Ⅱ・保健体育科教育法Ⅰ～Ⅳを除き，卒業単位に含まれない。

Ⅵ　進級条件及び各学年における標準的な修得単位

１．進級条件

各年次で進級に必要な最低単位数は，次のとおりである。

⑴　１年次から２年次：１年次の必修科目14単位のうち４単位以上を含み16単位

⑵　２年次から３年次：

①　１，２年次の必修科目22単位のうち14単位

②　総修得単位数が50単位

※但し，①の条件を満たし総修得単位数が40単位～49単位の者については，進級判定の対象となり，教授会で審議の結果，許可された学生のみ進級することができる。

⑶　３年次から４年次：82単位

２．各学年における標準的な修得単位

各学年における授業科目および修得単位数の目安は，次の表に示すとおりである。

また，各学期の履修登録については30単位までとし，年間の履修登録については42単位以下とする。GPA が3.00以上の者には，アドヴァイザーに相談したうえで最大49単位まで履修することを認めることがある。

各学期の GPA が1.50未満の場合には，アドヴァイザーの履修指導を受けなければならない。

学年	単位数の目安	
1年次 修得単位数 35～40単位	学科共通科目群Ⅰ（語学） Fundamentals of English Ⅰ，Oral Fluency Ⅰ，English for Advanced Studies a・b，English for Specific Purposes a・b（選択必修），日本語中上級科目・日本語上級科目（外国人留学生・帰国生選択必修） 学科共通科目群Ⅱ（情報） 情報メディア論（必修），経営情報基礎論（必修） コンピュータ基礎論・コンピュータ応用論（選択必修） 学科共通科目群Ⅳ（教養） キャリア形成科目群 ビジネスキャリアⅠ（必修） 専門基礎科目群 経営学総論（必修）	2科目4単位 3科目6単位 5科目10単位 1科目4単位 6科目12単位
2年次 修得単位数 35～40単位	学科共通科目群Ⅰ（語学） Fundamentals of English Ⅱ，Oral Fluency Ⅱ，English for Advanced Studies a・b・c，English for Specific Purposes a・b・c（選択必修），日本語中上級科目・日本語上級科目（外国人留学生・帰国生選択必修） キャリア形成科目群 ビジネスキャリアⅡ（必修） 専門基礎科目群 専門科目群Ⅰ ※上記指定された科目群より修得した科目以外に18単位	2科目4単位 1科目4単位 2科目4単位 5科目10単位
3年次 修得単位数 35～40単位	キャリア形成科目群 専門科目群Ⅰ ゼミナールⅠ（必修） ※上記指定された科目群より修得した科目以外に26単位	1科目2単位 4科目10単位
4年次 修得単位数 4～10単位	専門科目群Ⅰ ゼミナールⅡ（必修） ※上記指定された科目群より修得した科目以外に6単位	1科目4単位
卒業 修得単位数 124単位		

Ⅶ　授業科目の学年配当と履修すべき単位数

単位数に○印を付してある科目は，必修を示す。

1．学科共通科目群

学科共通科目群は，学科共通科目群Ⅰ（語学），学科共通科目群Ⅱ（情報），学科共通科目群Ⅲ（メディア），学科共通科目群Ⅳ（教養），学科共通科目群Ⅴ（スポーツ科学）の五系列に分かれている。それらの各系列の中から「Ⅴ．卒業に必要な単位について」で示された所定の単位以上を修得するために，科目を履修し，卒業要件を満たさなければならない。

⑴　学科共通科目群Ⅰ（語学）

<table>
<tr><th rowspan="2">系列</th><th rowspan="2">授業科目</th><th colspan="4">年次および単位数</th><th rowspan="2">最低修得単位数</th><th rowspan="2">備　考</th></tr>
<tr><th>1年</th><th>2年</th><th>3年</th><th>4年</th></tr>
<tr><td rowspan="19">学科共通科目群Ⅰ（語学）</td><td>Fundamentals of English Ⅰ</td><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="19">8単位</td><td rowspan="19">学科共通科目群Ⅰのうち，Fundamentals of English Ⅰ・Ⅱ，Oral Fluency Ⅰ・Ⅱ，English for Advanced Studies a・b・c，English for Specific Purposes a・b・cより8単位以上選択必修する。外国人留学生・帰国生は，日本語中上級科目・日本語上級科目を第1外国語として8単位以上選択必修する。

＊の科目は指定された交換留学生・短期留学生のみ履修できる。</td></tr>
<tr><td>Oral Fluency Ⅰ</td><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>Fundamentals of English Ⅱ</td><td colspan="2">2</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>Oral Fluency Ⅱ</td><td colspan="2">2</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>English for Advanced Studies a</td><td colspan="2">2</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>English for Specific Purposes a</td><td colspan="2">2</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>English for Advanced Studies b</td><td colspan="2">2</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>English for Specific Purposes b</td><td colspan="2">2</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>English for Advanced Studies c</td><td></td><td colspan="2">2</td><td></td></tr>
<tr><td>English for Specific Purposes c</td><td></td><td colspan="2">2</td><td></td></tr>
<tr><td>日本語中上級a（総合）</td><td colspan="4">2</td></tr>
<tr><td>日本語中上級b（受容）</td><td colspan="4">2</td></tr>
<tr><td>日本語中上級c（口頭産出）</td><td colspan="4">2</td></tr>
<tr><td>日本語中上級d（筆記産出）</td><td colspan="4">2</td></tr>
<tr><td>日本語中上級e（言語知識）</td><td colspan="4">2</td></tr>
<tr><td>日本語中上級f（聴解）</td><td colspan="4">2</td></tr>
<tr><td>日本語中上級g（読解）</td><td colspan="4">2</td></tr>
<tr><td>日本語上級a（総合）</td><td colspan="4">2</td></tr>
</table>

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
学科共通科目群Ⅰ（語学）	日本語上級ｂ（映像作品の日本語）	2				8単位	
	日本語上級ｃ（現代文章を読む）	2					
	日本語上級ｄ（口頭発表）	2					
	日本語上級ｅ（論文作成）	2					
	ビジネス日本語Ⅰ	2					
	ビジネス日本語Ⅱ	2					
	Basic Writing Skills	2					
	Intermediate Practical Discussion Skills	2					
	Intermediate Reading Skills		2				
	Intermediate Writing Skills		2				
	Intermediate Grammar	2					
	Oral Fluency Ⅲ	2					
	Advanced Practical Discussion Skills			2			
	Advanced Reading Skills			2			
	Oral Fluency Ⅳ			2			
	English Pronunciation			2			
	TOEIC：Vocabulary Ⅰ	2					
	TOEIC：Vocabulary Ⅱ		2				
	TOEIC：Grammar & Listening Ⅰ	2					
	TOEIC：Grammar & Listening Ⅱ		2				
	Spoken Business English			2			
	Business English Writing			2			
	日本語基礎表現技法		2				
	ドイツ語ⅠA	2					
	ドイツ語ⅠB	2					
	ドイツ語Ⅱ		2				
	フランス語ⅠA	2					

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
学科共通科目群Ⅰ（語学）	フランス語ⅠB	2				8単位	
	フランス語Ⅱ		2				
	フランス語Ⅲ		2				
	スペイン語ⅠA	2					
	スペイン語ⅠB	2					
	スペイン語Ⅱ		2				
	中国語ⅠA	2					
	中国語ⅠB	2					
	中国語Ⅱ		2				
	中国語Ⅲ		2				
	韓国語ⅠA	2					
	韓国語ⅠB	2					
	韓国語Ⅱ		2				
	韓国語Ⅲ		2				
	Basic Japanese a *	4					
	Basic Japanese b *	4					
	Basic Japanese c *	4					
	Basic Japanese d *	4					
	Japanese Language Proficiency Test a (Knowledge) *	2					
	Japanese Language Proficiency Test b (Comprehension) *	2					
	Intermediate Japanese a *	4					
	Intermediate Japanese b *	4					

〔備考〕

(1) 学科共通科目群Ⅰでは第一外国語として英語（外国人留学生・帰国生徒は日本語）を学ぶ。うちFundamentals of English Ⅰ・Ⅱ, Oral Fluency Ⅰ・Ⅱ, English for Advanced Studies a・b・c, English for Specific Purposes a・b・c（日本語は日本語中上級科目・日本語上級科目）は選択必修科目である。

(2) Fundamentals of English Ⅱ, Oral Fluency Ⅱを履修するためにはそれぞれのⅠを修得していること。

(3) 英語選択科目を履修する場合は，年度末に実施する英語プレスメントテストを受けることが望ましい。

(4) 第2外国語においてⅠBを履修するにはⅠAを修得していなければならない。

(2)　学科共通科目群Ⅱ（情報）

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
学科共通科目群Ⅱ（情報）	情報メディア論	②				6単位	学科共通科目群Ⅱのうち，必修科目を含みコンピュータ基礎論またはコンピュータ応用論のいずれかを選択必修し，6単位以上履修する。
	コンピュータ基礎論	2					
	コンピュータ応用論	2					
	経営情報基礎論	②					

(3)　学科共通科目群Ⅲ（メディア）

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
学科共通科目群Ⅲ（メディア）	メディア概論A	4					
	メディア概論B	2					
	メディア概論C	2					
	メディア概論D	2					
	メディア概論E	2					

(4)　学科共通科目群Ⅳ（教養）

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
学科共通科目群Ⅳ（教養）	倫理学概論	2				10単位	学科共通科目群Ⅳのうち，10単位以上選択必修する。
	法律学概論	2					
	日本国憲法	2					
	政治学		2				
	現代社会論	2					
	心理学	2					
	統計学の基礎知識	2					
	基礎の数学	2					
	自然科学概論	2					

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
学科共通科目群Ⅳ（教養）	線形代数学	2					
	外国史概説		2				
	日本の歴史ａ	2					
	日本の歴史ｂ	2					
	地理学ａ		2				
	地理学ｂ		2				
	地誌			2			
	宗教学概論	2					
	異文化適応論	2					
	情報表現技法	2					
	映像研究Ⅰ		2				
	映像研究Ⅱ		2				
	経済学の基礎	2					
	情報社会と情報倫理	2					
	地球環境論	2					

(5) 学科共通科目群Ⅴ（スポーツ科学）

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
学科共通科目群Ⅴ（スポーツ科学）	スポーツ科学Ⅰａ	1					教職課程を履修する者が優先される。
	スポーツ科学Ⅰｂ	1					
	スポーツ科学Ⅱａ		1				
	スポーツ科学Ⅱｂ		1				

〔備考〕
（1）スポーツ科学Ⅰａ，Ⅰｂを修得していなければ，スポーツ科学Ⅱａ，Ⅱｂを履修することが出来ない。

2．キャリア形成科目群

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
キャリア形成科目群	ビジネスキャリアⅠ	④				10単位（8単位）	キャリア形成科目群のうち，必修科目を含み10単位以上選択必修する。外国人留学生・帰国生は，必修科目を含み8単位以上選択必修する。
	ビジネスキャリアⅡ		④				
	ビジネスキャリア実践		2				
	インターンシップ		2				
	海外ビジネス研修Ⅰ	2					
	海外ビジネス研修Ⅱ	2					
	海外ビジネス研修Ⅲ		2				
	海外ビジネス研修Ⅳ		2				

3．専門基礎科目群，専門科目群Ⅰ，専門科目群Ⅱ（ゼミ研究・実践），専門科目群Ⅲ（教職関連）

本学部ではコース制を導入しており，東京紀尾井町キャンパスは3コース，東金キャンパスは4コースに分かれ，その中の専門領域のゼミで研究を深めることになる。1年次の基礎教育と「ビジネスキャリアⅠ」，2年次の「ビジネスキャリアⅡ」と段階的に学び，語学科目，情報系科目，専門基礎科目群，専門科目群の科目を計画的に履修し，ビジネスツールと国際教養を身に付けて専門領域の研究「ゼミナール」に進むことになる。

＜東京紀尾井町キャンパス＞

経営学や会計学，流通・マーケティング，消費者行動分析はもちろん，企業情報システムや情報ネットワーク，メディア情報，英語や諸外国の語学や国際ビジネスなどの科目が配置されている。日本の政治経済の中心地で語学，経営，経済，情報を幅広く学び，国際社会に不可欠な深い教養を身に付けることができる。

(1)　グローバルビジネス・マーケティングコース

このコースは，1年次から，英語，第二外国語を学習して語学力をスキルアップさせ，海外留学，インターンシップ・研修等により国際ビジネスの現場体験を積みながら，企業の国際展開に求められる英語でのコミュニケーション能力を身に付けたグローバルに活躍できる人材を育成する。そして，このコースでは，企業経営の戦略策定，組織設計，マネジメント力，マーケティング活動による顧客ニーズの把握や流通チャネルの効率化などについて実践的かつ専門的な知識を学び，グローバルな発想の下，具体的な諸問題を解決することが可能なビジネスパーソンやビジネスリーダーの育成を図る。

⑵　会計ファイナンスコース

公認会計士など高度会計専門職を含め，会計・財務・金融の実務能力を身につける。このコースにおいても，１・２年次に英語力を身に付け，上級学年では国際会計についても学習していく。

⑶　情報・メディアマネジメントコース

情報通信技術（ICT）やソーシャルメディア（SNS）を活用して企業や組織の情報戦略を推進するための人材を目指す。グローバル化が進む日本企業において，英語力は必ず求められる能力になっている。本コースにおいても，基礎科目，専門科目と並行して，１年次から英語を学習していく。

＜東金キャンパス＞

企業の様々な分野で活躍できる人材，成田国際空港という国際物流の拠点で活躍できる人材，地域や公共分野で活躍できる人材，保健体育分野における教育人材，スポーツの分野で活躍できる人材になるための準備を行う。そのために各コースにおいて体系的に学んでいく。また，様々なプロジェクトを通して実践的・体験的学習によりグローバル社会および地域活性化に貢献できる人材を育成する。

⑴　グローバルビジネス・マーケティングコース

このコースは，企業経営の基本とマーケティングを学び，地域貢献活動を通して地域経営ならびに地域経済活性化に求められるマーケティング企画力，マネジメント力と現場力を身につける。また，国際ビジネスと語学を学び，企業の国際展開に求められる他言語（特に英語）でのコミュニケーション能力を身につける。特に，航空貨物物流の拠点である成田空港に隣接した東金キャンパスでは，グローバル化の先端を担う航空貨物物流を体系的に学び，インターンシップや現場見学会を通して国際ビジネスの起点となる航空物流で活躍できる人材を目指す。

⑵　公共マネジメントコース

公務員試験合格を目指しながら，英語，経営，経済，法律等の幅広い分野について学んでいく。公務員とは言え，現在はグローバルな視点から国や地方の活性化に資する人材が必要とされている。そして，同時に民間の活力を引き出し，生かす企画力やマネジメント力が必要である。本コースはそうした人材を育成するためのコースである。

⑶　スポーツマネジメントコース

このコースは，スポーツ理論とスポーツ科学を身につけ，１年次から英語，スポーツ関連専門科目，教職に関する科目を修得する履修計画を立て，語学力，教師力のある保健体育教員を目指すと同時に，スポーツ指導者・スポーツリーダーの資質を養い，スポーツ業界で，スポーツクラブ等の管理・運営もできるマネジメント力のある人材を育成する。スポーツビジネスは，今や世界を舞台に展開され，その共通語は英語になっている。１年次から英語力を身に付けて，国際社会においてスポーツビジネスを展開できる人材を目指す。

⑷　情報マネジメントコース

このコースでは，情報通信技術（ICT）に基づく様々な基盤ソフトやアプリ（アプリケーションソフト）の開発，システムの設計・構築・運用に携わる者として「情報」の知識を学ぶ。また，電子商取引などのインターネットを活用したビジネスや，企業の情報システム部門で活躍できる人材あるいは情報技術を活用し情報による地域の活性化を図れる人材の育成を目指す。インターネットビジネスを展開する企業において，英語力は必須となっている。本コースにおいても，基礎科目，専門科目と並行して，１年次から英語を学習していく。

※コース推奨科目

それぞれのキャンパスにおいて各コースに分かれて学習する上で，1・2・3年次に修得しておくことが望ましい科目をコース推奨科目としている。学部必修科目と併せて履修計画を立ててもらいたい。科目の詳細については，オリエンテーション，「ビジネスキャリアⅠ」の授業で説明する。以下にコース推奨科目の内，１・２年生科目の一部を紹介する。

＜東京紀尾井町キャンパス＞

グローバルビジネス・マーケティングコース	会計ファイナンスコース	情報・メディアマネジメントコース
第二外国語 マーケティング論 ロジスティクス概論 簿記論 消費生活と行政 経営組織論 英語科目など	簿記論 会計学Ⅰ 会計学Ⅱ マーケティング論 ロジスティクス概論 財務諸表論Ⅰ 財務諸表論Ⅱなど	情報セキュリティ 情報ネットワーク論 データベース基礎論 情報社会と情報倫理など

＜東金キャンパス＞

グローバルビジネス・マーケティングコース	公共マネジメントコース	スポーツマネジメントコース	情報マネジメントコース
第二外国語 マーケティング論 ロジスティクス概論 会計学Ⅰ 英語科目など	日本国憲法 経済原論ａ 経済原論ｂ 政治学など	生涯スポーツ概論 スポーツ科学Ⅰａ スポーツ科学Ⅰｂ スポーツ社会学など	情報セキュリティ 情報ネットワーク論 データベース基礎論 情報社会と情報倫理 など

※各コースの選択方法や手続きについては，ビジネスキャリアⅠ・Ⅱを通じて行う。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門基礎科目群	企業と社会	2				16単位	専門基礎科目群のうち，必修科目を含み16単位以上を選択必修する。
	経営学総論	②					
	電子商取引論		2				
	マーケティング論	4					
	流通論		2				
	ロジスティクス概論	2					
	簿記論	4					
	工業簿記論Ⅰ	2					
	工業簿記論Ⅱ	2					
	会計学Ⅰ	2					
	会計学Ⅱ	2					
	財務諸表論Ⅰ（理論）		2				
	財務諸表論Ⅱ（計算）		2				
	経営分析論		2				
	経済原論a	2					
	経済原論b	2					
	消費生活と行政	2					
	情報システム論		2				
	情報セキュリティ	2					
	生涯スポーツ概論	2					
	スポーツ社会学	2					
	食と健康	2					
	社会調査		2				
	環境生態学		4				

4．専門科目群

⑴　専門科目群Ⅰ

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅰ	経営戦略論			2		24単位	専門科目群Ⅰのうち，24単位以上を選択必修する。ただし，体づくり運動，水泳，柔道など＊印のスポーツ科学実技科目は，教職課程を履修する者が優先される。
	経営管理総論		2				
	人事労務管理論		2				
	経営組織論		2				
	中小企業論			2			
	企業倫理論		2				
	情報化戦略論		2				
	組織情報論	2					
	ビジネスデータ分析			2			
	情報産業論		2				
	起業マネジメント論			2			
	事業と継承		2				
	国際経営論			4			
	流通情報システム論		2				
	消費者行動分析論			2			
	国際マーケティング論			2			
	管理会計論			2			
	原価計算論Ⅰ		2				
	原価計算論Ⅱ		2				
	会計監査論		2				
	現代ファイナンス論			2			
	財務会計学			2			
	地域振興論		2				
	ミクロ経済学			2			
	マクロ経済学			2			
	国際経済学		2				
	財政学			2			
	金融論		2				

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅰ	ファイナンシャルプランニング論a		2				
	ファイナンシャルプランニング論b		2				
	デジタルメディア論		2				
	情報ネットワーク論		2				
	データベース基礎論		2				
	情報理論		2				
	データベース応用論		2				
	情報処理基礎論		2				
	情報処理応用論		2				
	アルゴリズム基礎論		2				
	アルゴリズム応用論		2				
	プログラミング基礎		2				
	プログラミング応用		2				
	システム監査論		2				
	モデル化とシュミレーション			2			
	情報学特論		2				
	情報学基礎演習	2					
	情報学応用演習	2					
	健康管理概論		2				
	スポーツビジネス論		2				
	スポーツ栄養学		2				
	心と身体の科学		2				
	運動生理学		2				
	スポーツ医学			2			
	スポーツ心理学		2				
	救急処置（実習を含む）		2				
	スポーツ経営学		2				
	スポーツと地域振興			2			
	健康運動指導法（実習を含む）			2			

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅰ	体力トレーニング実習			1			
	解剖生理学		2				
	衛生・公衆衛生学			2			
	学校保健学			2			
	地域スポーツマネジメント論			4			
	体育史		2				
	運動学（運動方法学を含む）＊		2				
	体つくり運動＊		1				
	器械運動＊		1				
	陸上競技＊		1				
	水泳＊		1				
	サッカー＊		1				
	バレーボール＊		1				
	バスケットボール＊		1				
	ソフトボール＊		1				
	柔道＊		1				
	ダンス＊		1				
	スキー＊		1				
	民法 a		2				
	民法 b		2				
	商法 a		2				
	商法 b		2				
	会社法 a			2			
	会社法 b			2			
	税法 a			2			
	税法 b			2			
	行政法		2				
	労働法		2				
	国際法			4			

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅰ	環境と食文化		4				
	環境政策論		2				
	地域生態系保全論		2				
	アロマテラピー		4				
	食と緑のマネジメント論		2				
	Business and Society	2					
	Introduction to Database Theory			2			
	Introduction to Global Management	2					
	Strategic Management		2				
	International Marketing			2			

(2) 専門科目群Ⅱ（ゼミ研究・実践）

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅱ（ゼミ研究・実践）	ゼミナールⅠ			④		8単位	専門科目群Ⅱのうち，必修科目を含み8単位以上を選択必修する。
	ゼミナールⅡ			④			
	プロジェクト研究a		2				
	プロジェクト研究b		2				

(3) 専門科目群Ⅲ（教職関連）

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅲ（教職関連）	ボランティア活動ⅠA	2					専門科目群Ⅲは，＊の科目を除き，卒業単位に含まれない。 ＊の科目は当該教科の教職課程履修者のみ履修できる。
	ボランティア活動ⅠB	2					
	地理情報論Ⅰ	4					
	地理情報論Ⅱ		4				

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅲ（教職関連）	教育原理		2				
	教育課程論	2					
	教職論	2					
	教育心理学		2				
	教育制度		2				
	教育方法論		2				
	社会科教育法Ⅰ*			2			
	社会科教育法Ⅱ*			2			
	社会科教育法Ⅲ*			2			
	社会科教育法Ⅳ*				2		
	公民科教育法Ⅰ*			2			
	公民科教育法Ⅱ*			2			
	保健体育科教育法Ⅰ*			2			
	保健体育科教育法Ⅱ*			2			
	保健体育科教育法Ⅲ*			2			
	保健体育科教育法Ⅳ*				2		
	道徳教育の理論と方法	2					
	特別活動論		2				
	生徒指導（進路指導の理論および方法を含む）		2				
	教育相談（カウンセリングを含む）			2			
	介護等体験			2			
	教育実習Ⅰ（事前及び事後指導を含む）				3		
	教育実習Ⅱ				2		
	教職実践演習（中・高）				2		
	特別のニーズ教育論		2				
	総合的な学習の時間の指導法		2				

Ⅷ　履修申請について

各年次において履修しようとする授業科目は，学期の初めの指定された期日に，所定の方法（オリエンテーションで説明する）で履修申請をしなければならない。履修申請は，年間の受講計画をたて，単位を取得する意思表示をする学期初めの重要な手続きである。この履修申請手続きを間違えたために，授業科目の履修ができなくなり，その結果，進級はもとより卒業ができなくなる場合もあるので，以下に掲げる注意事項を厳守して，誤りの無いように履修申請をすること。

⑴　履修授業科目および担当教員などの変更，追加，取消しなどが無いよう，入力する前に授業時間割表に則してもう一度確認するなど，細心の注意を払うこと。なお，履修照合期間が設けられているので間違いなく登録されているかどうかを必ず確認すること。

⑵　履修申請をしていない授業科目は，受講しても単位は認められない。また修得した単位は分割することはできない。よって，授業科目の申請にあたっては進級や卒業に必要な単位の算定を慎重に行い，修得単位数が不足しないように万全を期すこと。

⑶　同一学期の同一時限に２つ以上の授業科目を履修することはできない。

⑷　一度単位を修得した授業科目は，再度履修することはできない。

⑸　Web 履修登録では，授業科目，コマ・コード番号など必要事項を正しく入力すること。入力上の誤りは申請自体が無効になるので十分注意すること。また，入力の際，PC の前で長時間考えているとタイムアウトになる可能性があるので，登録する講義や時間割の下書きを準備してから入力すること。なお，大学内に設置されている PC の台数は限られているので，Web 履修のために長時間占有しないこと。

⑹　コマ・コード番号とは，時間割表に授業科目と共に記載されている番号で，その時限の授業科目に固有の番号である。

⑺　指定された期日までに履修申請を怠った場合は，学業の意思なしとみなされて，退学処分となるので入力期限を厳守すること。

⑻　教職課程・副専攻・留学等，履修についての質問は，それぞれのアドヴァイザーもしくは，学部事務室に相談すること。

Ⅸ　正規の履修からはずれる場合

１．再　履　修

履修申請をして単位が取得できなかった授業科目については，次年度または次学期において再び履修することができる。

２．規定外履修

該当するクラスの授業時間以外のクラスで受講せざるを得ない場合は，アドヴァイザーと相談の上必ず学部事務室に申し出ること。ただし１年次生の規定外履修は原則として認めない。

X　試験について

1．定期試験および臨時試験

⑴　試験は，定期試験と臨時試験があり，定期試験は原則として学期末あるいは学年末に行い，臨時試験は担当教員の判断により適宜行われる。

⑵　いずれの授業科目も授業時数の1/3以上欠席した場合には，原則として当該授業科目の受験資格を失う。欠席と公欠の詳細については，本学生便覧の「学生生活のしおり授業関係」ページに記載されているので，必ず確認すること。なお，就職活動に伴う欠席については，本学部では以下の通りに扱う。

・就職活動に伴う欠席

就職活動のための授業の欠席は，公欠にはならない。欠席をどのように配慮するかは各授業担当教員の判断に任されているが，原則として①就職試験，②選考の必須条件となっている会社説明会，③正式な内定式，がその配慮の対象となりうる。また，欠席，公欠，及び就職活動に伴う欠席を含めて総授業回数の半分以上を欠席した場合は，原則として当該授業科目の受験資格を失う。

手続きの方法は，就職活動証明書（出席証明書）の所定欄に企業等の採用担当者から署名頂いたものを就職センターに提出し，その後，就職センターで検印を受けた授業欠席届を各授業担当教員に提出する。なお，就職活動証明書（出席証明書）および授業欠席届はJIU Portalからダウンロードするか，就職センター窓口で受け取ること。

⑶　試験の時間割は掲示により連絡する。

⑷　授業科目によっては論文（レポート）提出によって試験に代える場合がある。

2．追　試　験

⑴　追試験は，やむを得ない事情によって定期試験を受験できなかった者に対し，原則として学期末または学年末に実施する。

⑵　追試験を希望する者は，正当な事由を証明する書面をもって速やかに授業担当教員に届け出ること。

⑶　追試験は，成績表の当該科目に「T」の表示がなされた場合に限って受験することができる。

なお，追試験は，履修（再履修を含む）した年度に限り受験することができる。

⑷　追試験を受験しようとする者は，「追試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。

なお，追試験の受験料は，１科目につき200円である。

3．再　試　験

⑴　再試験は，原則として学期末または学年末に実施する。ただし，授業科目によっては再試験を行わない場合もある。

⑵　定期試験の結果，不合格（この場合成績表の当該科目に「F」の表示がなされる）と

なった授業科目のある者は，当該授業科目の担当教員が再試験を行なう場合，受験することができる。

なお，再試験は，履修（再履修を含む）した年度に限り受験することができる。

(3) 再試験の受験を許可された者は，「再試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。

なお，再試験の受験料は，１科目につき1,000円である。

4．試験に関する注意

1．通　則

(1) 試験場内では，すべて監督者の指示に従わなければならない。なお，監督者の指示に従わない者には，退場を命ずることがある。

(2) 試験場内では，筆記用具・持込みを許された資料以外のものは，すべて監督者の指定する場所におかなければならない。

(3) 受験者は学生証および受験許可証（追・再試験の場合）を，机の上の見やすい場所に提示しておかなければならない。

(4) 試験開始から20分を経過した後は入室・受験を認めない。

(5) 試験開始から25分を経過するまでは退場を認めない。なお，監督者が退場を命ずる場合はこの限りではない。

(6) 受験者は，試験中監督者の許可を得ないで試験場を出てはならない。

(7) 試験の行われる学期の授業料未納の者・授業時数の1/3以上欠席した者は，試験を受けることができない。

(8) 病気・事故その他正当な事由によって受験できなかった者は，診断書・事故証明その他正当な事由を証明する書面を添えて，遅滞なく授業担当教員に届出なければならない。

2．試験における不正行為の懲戒について

(1) 不正行為をした者については，学則第68条により罰せられ，更に年度における当該授業科目の単位の認定を行わない。

また，不正行為を行った学期に履修している全ての科目の単位を認定しない場合がある。

(2) 不正行為のあった者の懲戒処分については，教授会の審議を経て，学長が決定する。

(3) 学長はその旨保証人を召喚して通知すると共に学内にこれを公示する。

3．試験における不正行為とは

(1) 他の人から答えを教わることや，教えること等，いわゆるカンニング及びその手助けをすること。

(2) 本人以外の名前・学籍番号で受験すること。

(3) 許可されていないものを使用すること。

⑷「解答はじめ」の前，及び「解答おわり」の後に，試験監督の指示に従わず，解答を続けること。

⑸ その他，試験監督の指示に従わないこと。

⑹ 論文・レポート等における，剽窃行為をすること。

※剽窃行為…引用の形式をとらず，著作権者に無断で著作物を複製・転載する行為。学術上のルール・モラルに反する行為であり，著作権法に違反する行為。

Ⅺ　授業科目の単位認定と進級及び留年

1．単位認定

⑴ 各科目の成績は，シラバス記載の成績評価基準に基づき総合的に判定する。

⑵ 100点を満点とし，60点以上をもって単位修得（合格）とする。

その評価は次に従う。

評価	得点分布
S	100点～ 90点
A	89点～ 80点
B	79点～ 70点
C	69点～ 60点

⑶ 再試験における評価は60点を合格とし，79点を上限とする。

⑷ 再試験における成績評価の最高点は，定期試験合格者の成績評価の最低点を上回らないものとする。

2．進級及び留年

⑴ ３年次への進級については，指定された進級要件を満たした場合に可能となる。

なお，指定された進級要件を満たさない場合においても，進級を認める場合がある。

⑵ ４年次で卒業要件を満たさない者は留年とする。

Ⅻ　成績発表

⑴ 成績発表は，アドヴァイザーまたはゼミナール担当教員より本人に成績表を交付するので，学部事務室の指示に従って必ず交付を受けること。その際，学生証を提示すること。

なお，指定された期日以外には交付しない。

⑵ 成績の評価は次の記号で表わし，60点以上をもって単位取得（合格）とする。

（合　格）	（正規試験不合格）	（追・再試験不合格）
S：100～90点	F：59点以下（再試験受験可）	D：59点以下
A： 89～80点	T：追試験受験可	E：未受験
B： 79～70点	Z：追・再試験の受験資格なし 評価不能	
C： 69～60点		

⑶　成績表には，学習成果を総合的に推し量る指標 GPA（Grade Point Average）を表記している。

詳細については，Web 履修登録画面にて確認すること。

⑷　成績についての疑問，質問等は成績表交付日のみ受け付けるので，学部事務室に問合わせること。

⑸　事故，病気等により指定日に成績表の交付を受けられない場合は，代理人を定め，成績表の交付を受けること。その場合は代理人学生証および委任状を持参すること。